

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
保育実習指導 I Guidance and Evaluation Child Practice I		1年	通年	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	演習	選択	(保育士養成課程必修)	こどもフィールドのみ
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
保育士養成課程必修科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程必修科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
高橋登美子 大塚登	授業中に指示 します	火・水・木・金 9時から16時(授 業時間を除く)		授業中に指示します
授業の概要				
保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、それぞれの実習内容と特徴を知り、実習に臨む際に必要な様々な準備に向けて、授業内容を基に各自が責任を持って取り組む。保育実習の意義や目的を確認しながら、さらに発展して保育士の仕事や社会的役割も学習する。				
授業の目標				
①保育実習の意義・目的の理解に努め、自らの実習課題を明確に持つことができるようにする。 ②観察・実践・記録など、実習に向けての取り組みができるようにする。 ③保育学生としての挨拶、電話のかけ方、言葉遣い、必要書類の扱い方など、事前の準備ができるようにする。 ④守秘義務の重要性を理解することで、自ら実践できるようにする。				
授業の方法				
前期では、実習に臨む保育学生としての態度や取り組み方など、基本的事項を学ぶ内容を中心として進める。保育所実習、施設実習では、求められる実習内容や取り組み方が異なる点があるため、実習の特長についても詳しく学ぶ。後期では、実習に向けた具体的事項を学ぶ内容として進める。実習後のふりかえりではグループ討議を経て、ポスター発表の製作を共同で行うことにより自身の取り組みを具体的にふりかえる。				
学習の成果(学習成果)				
保育学生としての自覚をもって実習の準備に取り組み、保育実習とはどのようなものなのか、何が求められているのか、必要な知識や技術について等、具体的に意識したうえで認識することができる。それぞれが臨む実習施設において、求められる保育に適応した保育観察・部分実習・実習記録を取ることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス(通年科目としての授業の進め方、授業の出欠席と課題)			
第2回目	【前期授業の内容】			
第3回目	○保育実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの、それぞれの実習内容と特徴や時期について			
第4回目	○保育実習Ⅰ(保育所)の実習施設検討(公立保育所・私立保育園)			
第5回目	○保育実習と教育実習の違いについて(対象年齢による保育の違い、求められる実習内容、実習時間など)			
第6回目	○実習に臨むための基本的事項			
第7回目	①実習依頼に関する依頼内容、電話のかけ方、言葉の遣い方について			
第8回目	②実習依頼に関する実習施設訪問について(実習届記入の注意事項)			
第9回目	③実習施設訪問時の実習依頼の仕方、実習届の記入の仕方、学校提出について			
第10回目	④実習施設における事前オリエンテーションの実施について			
第11回目	⑤実習生調査票に関する留意事項と記入の仕方について			
第12回目	⑥実習事前準備の内容とその必要性について(教材研究と保育教材作成の必要性含む)			

第13回目	○抗体検査結果票の取り扱いと保管の仕方・提示の方法について	
第14回目	○夏期休業中の一日体験実習・自主実習、紙芝居の製作について	
第15回目	○保育実習の意義と目的の確認、プライバシーの保護と守秘義務について	
第16回目	ガイダンス（実習に向けて取り組む実践的な授業内容について、授業の出欠席と課題について）	
第17回目	【後期授業の内容】	
第18回目	○実習に臨むための基本的な事項の確認と実習に向けての事前準備	
第19回目	①実習園の情報を基に実習計画を立てる	
第20回目	②実習園での実習に向けた「実習のねらい、抱負、課題」を立てる	
第21回目	③実習園でのオリエンテーションに向けた事前準備をする（持参書類の記入と確認）	
第22回目	④実習日誌の取り扱いを知る（バインダーの活用方法、提出方法）	
第23回目	⑤実習日誌の記録の仕方を知る（記録の方法、記述内容の観点、表現の注意事項 など）	
第24回目	⑥実習日誌の記録に向けた準備を確認する（筆記用具、メモの活用方法、専門知識、漢字の活用）	
第25回目	⑦実習中の子との関わり方、保護者とのかかわり方を知る	
第26回目	⑧実習のふりかえりの大切さを知る	
第27回目	⑨腸内細菌検査実施について（検査キットの扱い方、送付準備、送付期日の確認）	
第28回目	○実習に向けた映像教材「保育者を目指すあなたへ」「低年齢児の保育」を見る	
第29回目	○実習計画に基づく課題と目的、実施に関する確認	
第30回目	実習施設の保育形態や保育理念に応じた実習内容の確認と事前準備の確認	
事前・事後学習	居住地の保育施設の場所や特徴を調べておく。図書館を活用し、多くの実習テキストに目を通しておく。保育教材の製作は、授業時間外でたくさん作り活用の準備をする。	
成績評価の方法と基準		
評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	50%	この授業での態度は実習態度として捉えるため、保育学生としての意識を持った取り組みであること。実習準備を含む演習活動に対して意欲的であること。実習園の調査や実習オリエンテーションが適切であること。
レポート	10%	実習に向けた抱負の「実習に臨んで」では、目的意識を明確にした課題が述べられている。提出期限厳守も評価対象とする。
調査報告書	10%	夏期休業に臨む体験実習の報告書において、求められている記載内容に対して適切な表現と活字を用いて書くことができていることで評価する。提出期限厳守も評価対象とする。
小テスト		
試験		
発表内容（態度含む）	20%	夏期休業を利用した保育教材「紙芝居」の製作。実習で活用できることを目的とするため、内容・配色・枚数・対応年齢の考慮等で評価する。提出期限厳守も評価対象とする。
その他	10%	保育教材製作では、製作準備から片付けまでを丁寧に取り組み、授業時間内で安全を意識した製作物を完成することができている。
教科書と参考図書		
「保育実習の手引き」佐野日本大学短期大学 「幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド」「実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド」わかば社 教材研究・保育教材政策に関する書籍は随時紹介する。適宜教員作成の資料を配布する。		
履修上の留意点・ルール		
●実務経験（職種：幼稚園教諭、職歴：5年：高橋） 保育学生としての履修態度を望む。（ガイダンス時に口頭で説明） 授業態度の状況によっては個別指導を行う。		